

歴史民俗資料館を訪ねて

南国市の歴史を学ぶために、南国市岡豊山にある高知県立歴史民俗資料館を訪れました。地元の南国市をはじめ、高知県立埋蔵文化財センター・県内の教育委員会が発掘した遺物が多数展示されており、出土品からどのように南国市が発展してきたのか、南国市がいかに重要な地域であるかが分かります。旧石器時代からの南国市の歩みを一緒に見ていきましょう！



南国市の遺跡（本記事掲載分）

奥谷南遺跡（岡豊町小蓮）
①旧石器時代ほか

岡豊城跡（岡豊町八幡）
⑤中世

若宮ノ東遺跡（篠原）
④古墳時代・古代

舟岩古墳群（岡豊町小蓮）
④古墳時代・古代

小蓮古墳（岡豊町小蓮）
④古墳時代・古代

土佐国府跡（比江）
④古墳時代・古代

田村遺跡群（田村）
③弥生時代 ⑤中世

④古墳時代・古代

高知の中心地は南国市だった!?

歴史民俗資料館の近くの岡豊地区では、県内三大古墳のひとつ「小蓮古墳」のほか、22基の舟岩古墳群が発見されています。古墳には各地域のリーダーが葬られ、多数の古墳の出現は、社会全体の生産力が高まったことを示しています。

また、比江地区からは古代の役所の建物跡や役人が使った文房具類が発見されていることから、国衙（今で言う県庁）があったと推定されており、「コクチョウ」「ダイリ」など国府に関連する地名も残っています。

さらに、篠原の若宮ノ東遺跡では、県内で最も古い飛鳥時代の役所の建物跡が見つっています。この遺跡は近くの野中廃寺とも密接な関係があったとされているそうです。野中廃寺は近年、国分寺との関連も示唆されており、今後も注目を浴びそうな地域です。



須恵器（奥：舟岩2号墳出土 手前：長畝古墳群出土）

⑤中世～

瓦が歴史を紐解くカギだった!

ここで、いよいよ長宗我部元親の岡豊城の話題に突入。天正4年（1576年）から築城を開始した安土城では、いち早く本格的に城に瓦を取り入れたことで知られていますが、岡豊城跡から出土の瓦には「天正三年」と書かれていて、全国の中でも早い段階で瓦ぶきの建物が建っていたことが分かっています。さらに、鉛製の弾丸や輸入品の陶磁器も見つかっており、海外の製品も入手していました。また、田村遺跡では鎌倉時代から屋敷が立ち並んでいます。年号が記されたお札や備前焼の棺桶などが見つかり、中世の最後の段階では長宗我部氏の家臣たちが住んでいたことが分かっています。



岡豊城跡で出土した「天正三年」銘の丸瓦（右）



溝で囲まれた田村遺跡の屋敷群のジオラマ

以上のように、南国市は遥か昔から人々が生活した痕跡が残り、遺跡の宝庫といってもよい所です。また高知の中心的な役割を担った時代が長く続いたことも分かります。空港の拡張工事の前に発掘調査をすることで田村遺跡のような歴史的に貴重な文化財を発見することができました。まだまだ発掘できていない土地はたくさんあります。もし私たちの家の地下にも、貴重な文化財が眠っているとしたら…… 浪漫がかきたてられますね。

かつての南国市の暮らしについて知ることのできる歴史民俗資料館、皆さんもぜひ見に行ってみてください。

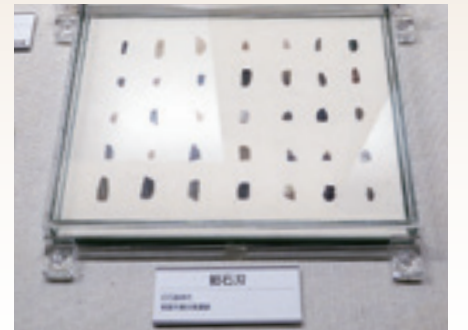
①旧石器時代

石器をつくった遺跡!

全国的に最古の遺跡は、4万2千年前までさかのぼることができるようですが、南国市の奥谷南遺跡から出土した遺物は、約2万年前のものとされているそうです。

細石刃は柄に装着して使用する狩猟の道具です。もし一部が使用できなくなっても細石刃を交換して使うことができます。

この遺跡では、岩陰のような地形を利用し生活していた様子が分かります。



奥谷南遺跡で出土した細石刃

②縄文時代

縄文人の生活の様子も分かる!

南国市内の遺跡は展示されていないものの、奥谷南遺跡でも土器が出土しているそうです。

隣の香美市刈谷我野遺跡や本山町の松ノ木遺跡、宿毛市宿毛貝塚などから出土の資料が展示され、人々が狩猟や採集をし、土器で煮炊きして生活していたことが分かります。



奥谷南遺跡の縄文時代草創期～早期の土器（埋蔵文化財センター発掘調査報告書より）

③弥生時代

全国的に有名な田村遺跡の登場!

弥生時代初期の村が丸ごと発見され、弥生人の足跡がのこる水田跡や炭化米など米作りの痕跡を示す、あの「田村遺跡」。全国的にも知られる遺跡で、教科書に載っているのを覚えている人も多いのでは？ 特に南国市南部は、広い平野と豊富な水源に恵まれていたことから、水田稲作に適しており、集落の形成が進んだのでは、と考えられています。



田村遺跡群出土の大型の壺



県立歴史民俗資料館

■ 開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）
■ 休館／12月27日～1月1日（臨時休館する場合あり）
☎ 088-862-2211

